

「親の介護に関する調査」結果

～介護は突然やってくる。あなたの備えは大丈夫？～

SOMPOホールディングス株式会社(グループCEO執行役社長:櫻田 謙悟、以下「SOMPOホールディングス」)は、「親の介護に関する調査」を実施しました。その調査結果および専門家のコメントをご案内します。

厚生労働省が公表している、「介護保険事業状況報告」によると、要介護(要支援)認定者数は、全国に約665.7万人存在しています(令和元年8月末)。今後、高齢化が進むとともに介護の問題は一層増加することが見込まれ、より身近なものになってくることが想定されます。

SOMPOグループでは、SOMPOケアが運営する高齢者介護施設、SOMPOひまわり生命が提供する、MCI(軽度認知障害)を保障する「笑顔をももる認知症保険」、損害保険ジャパン日本興亜が提供する、親の介護費用を補償する「親子のちから」などを通して、介護に伴う社会課題の解決に取り組んでいます。また、「SOMPO笑顔倶楽部」では、認知機能低下の予防から介護までを幅広くサポートしています。

SOMPOホールディングスは、今回の結果をふまえ、グループ全体でお客さまに安心・安全・健康をお届けできるよう、介護に関する各種サービスの提供に一層取り組んでいきます。

■調査結果のポイント

1. 親の介護が必要だと感じたきっかけは、親の病気や怪我である方が約半数。(質問1)
2. 介護を経験した方の多くは、「介護に関する情報収集」、「親本人や家族との話し合い」、「介護費用の準備」等を事前に行っておけばよかったと思っている。(質問4)
3. 介護の不安や困りごとを誰にも相談できず、抱え込んでいる方が約15%いる。(質問8)
4. 一方、近い将来介護をする可能性がある方のうち、介護に備えて何もしていない方が約60%に上る。(質問10)

<アンケート概要>

調査期間:2019年11月25日(月)から11月28日(木)

調査方法:インターネット(PC、携帯電話モバイルサイト)

調査対象者:全国の30代以上の男女

回答者数:有効回答者数:2,179人

うち、「親(※)の介護経験がある」と答えた方:1,091人

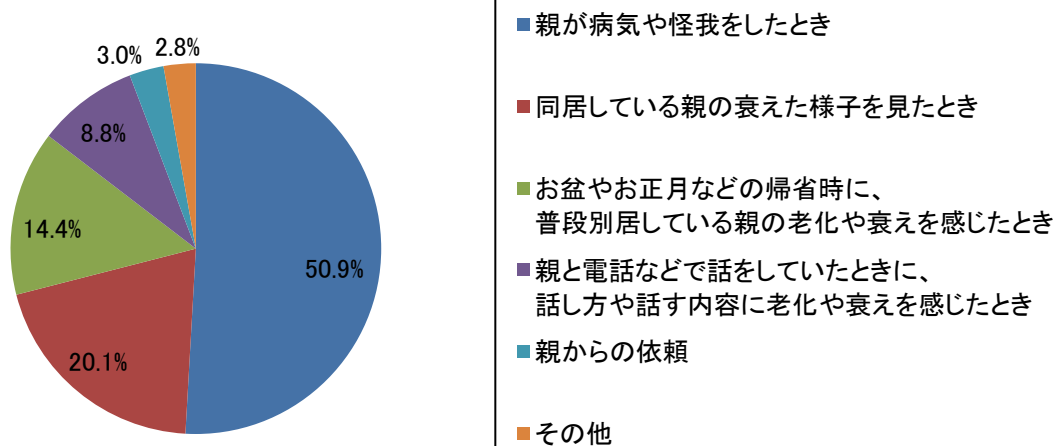
「親(※)の介護経験がない」と答えた方:1,088人

※実の親および義理の親

<以下の質問1～8は、「親の介護経験がある」と答えた方にお聞きしました。>

質問1. あなたが親の介護が必要だと感じたきっかけはなんですか？

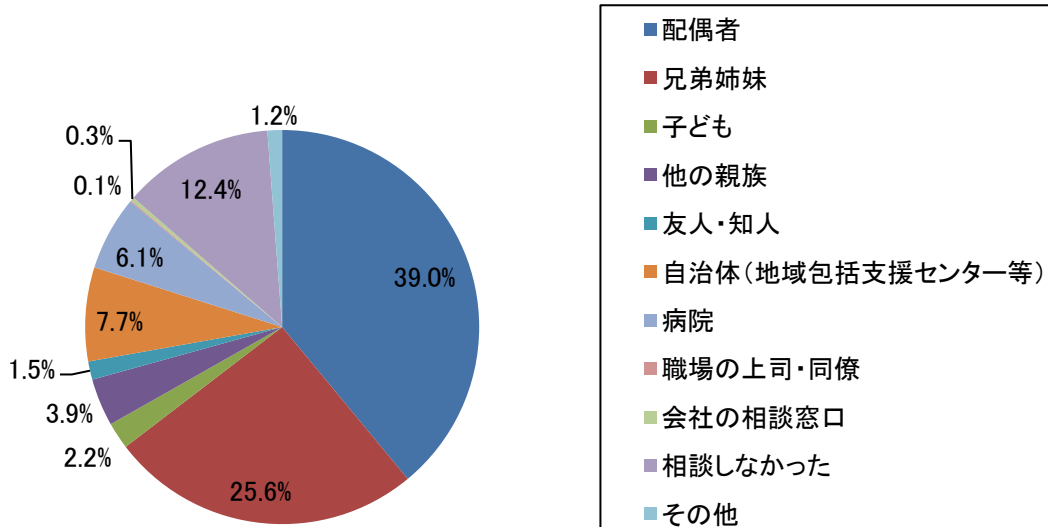
半数の方が、親が病気や怪我をしたことをきっかけに、介護が必要だと感じたことがわかりました。また、病気などの具体的な事例がなくても、日々の生活や帰省のタイミングなどで親の老いや衰えに気づき、介護が必要だと感じた方も、40%近くいることがわかりました。



(回答対象:親の介護経験があると答えた方 回答者数:1,091人)

質問2. 親の介護が必要になったとき、最初に誰に相談しましたか？(複数の親の介護経験がある場合は、初めて介護をすることになった時についてお答えください)

約65%の方が配偶者や兄弟姉妹に最初に相談していました。また、約12.4%の方は、誰にも相談をしていないことがわかりました。



(回答対象:親の介護経験があると答えた方 回答者数:1,091人)

質問2-1. 質問2で、「相談しなかった」と答えた方にお聞きします。それはどうしてですか？（記述回答）

「相談できる人が周りにいなかった」と答えた方が一番多く見られました。
また、中には「恥ずかしい」といった回答もあり、親の介護を周りに知られたくないという気持ちの方もいることがわかりました。

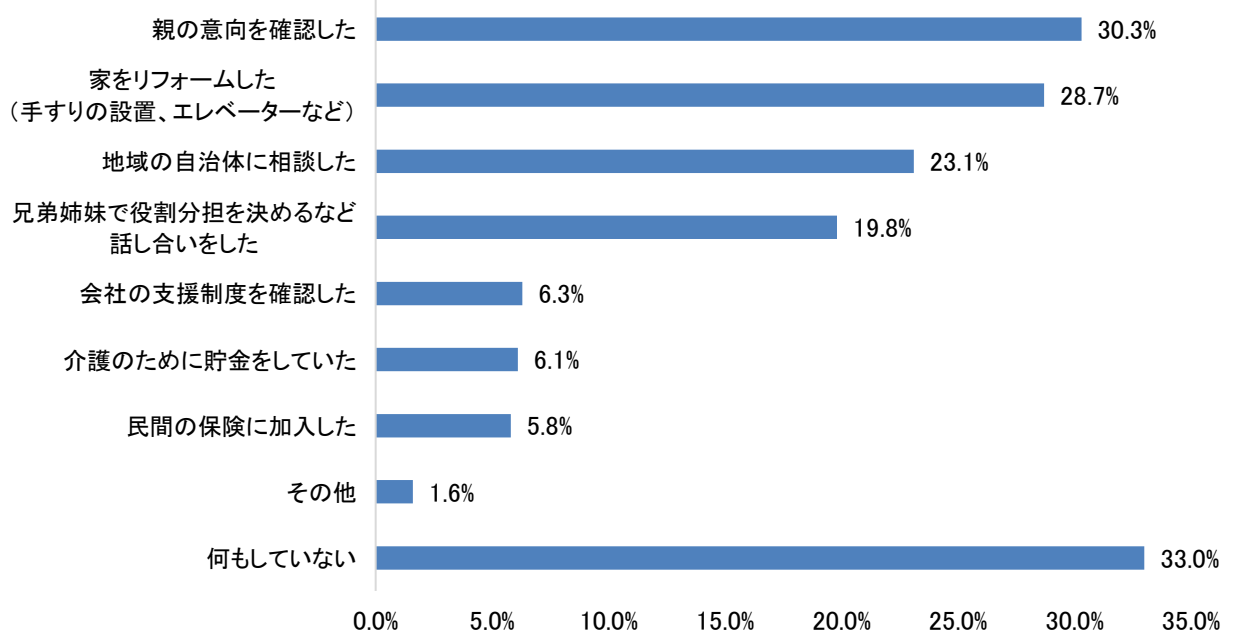
主な回答は以下のとおり

- ・誰に相談していいか、どこに相談していいかわからなかった
- ・相談する相手がいなかった
- ・親の介護は子供である自分の問題だから
- ・親の介護を周りの人に知られるのが嫌だったから
- ・自分が介護をするのが当然のこととっていたから
- ・恥ずかしいから
- ・周りの人に知られなくなかったから など

（回答対象：質問2で「相談しなかった」と答えた方 回答者数：135人）

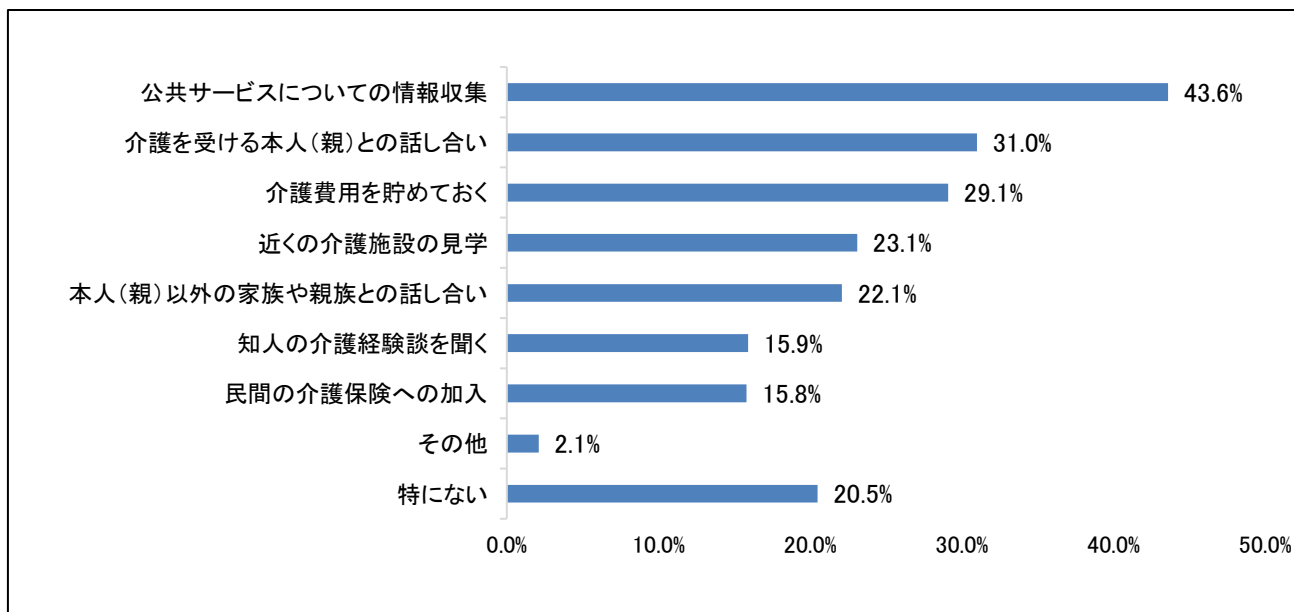
質問3. あなたは親の介護に備えて、何か事前に準備をしていましたか？（複数選択可）

33%の方が、介護に備えて事前に「何もしていなかった」とわかりました。
「具体的な行動を起こしていた（以下の設問事項）」と答えた方の中では、「親本人の意向を確認した」、「家をリフォームした」、「地域の自治体に相談した」という回答が続きました。



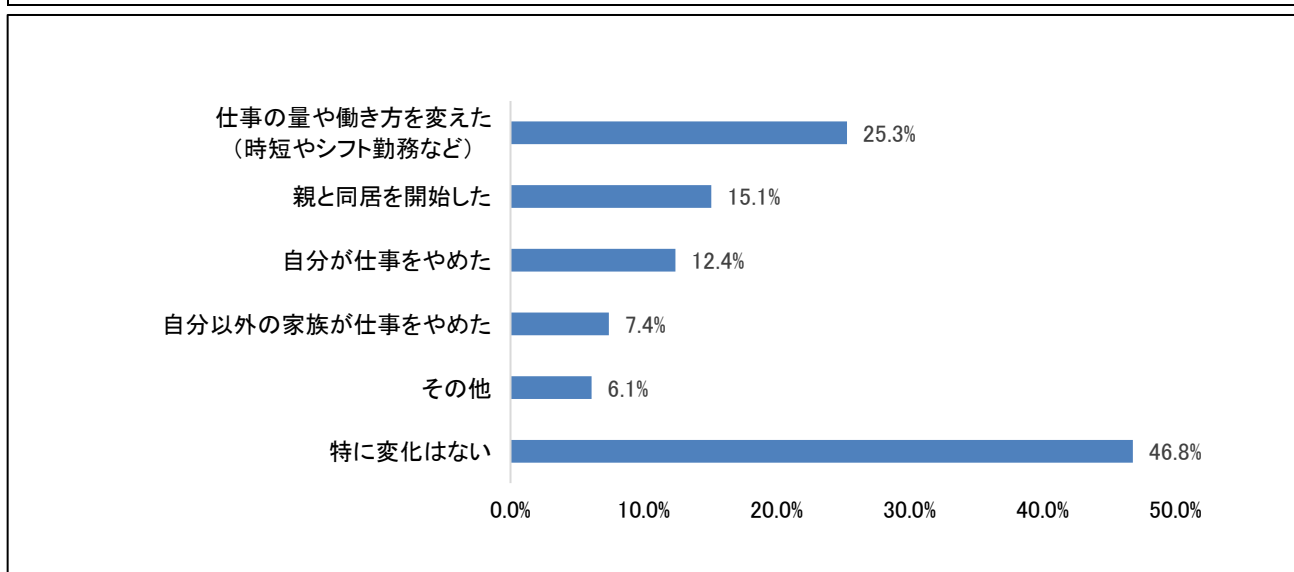
質問4. 実際に親の介護を経験して、事前に「やっておけばよかった」と思うことは何ですか？（複数選択可）

半数近くの方が、「事前に公共サービスについての情報収集」をしておけばよかったと回答しました。また、次いで、「介護を受ける親本人との話し合い」や、「介護費用を貯めておけばよかった」と感じる方が多い結果となりました。その他の意見として、「シーツの替え方や、寝たままのシャンプーの仕方」といった、介護の知識を事前に習得しておけばよかったという回答や、「親の金融資産の整理や相続」についても事前に親に確認しておけばよかったという回答がありました。



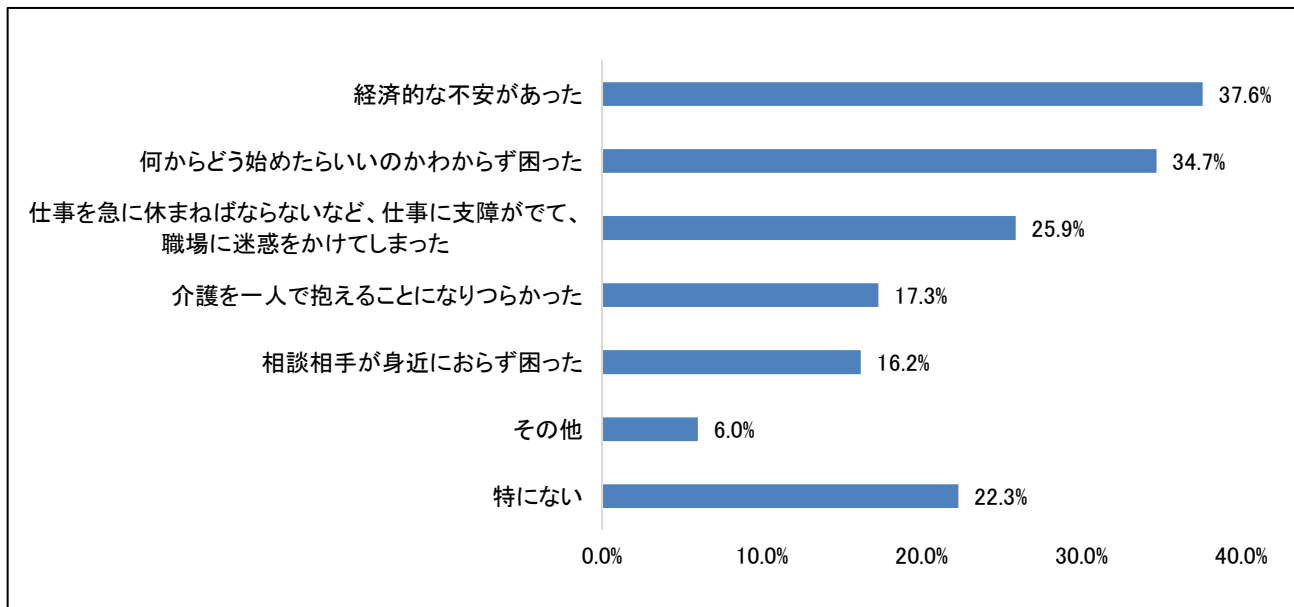
質問5. 親の介護を始めたことで、あなたの生活環境に何か変化はありましたか？（複数回答可）

何かしら生活環境に変化があった方が半数以上を占めることがわかりました。仕事を持っている方は、働き方を見直したり、仕事を辞めたりしていることがわかりました。「その他」の意見として、「極力残業をしないようにする」「有給休暇を取る」などといった取組みをする方がいることがわかりました。また、「実家へ帰る頻度が増えた」「親が入所した介護施設に頻繁に通うようになった」という回答もありました。



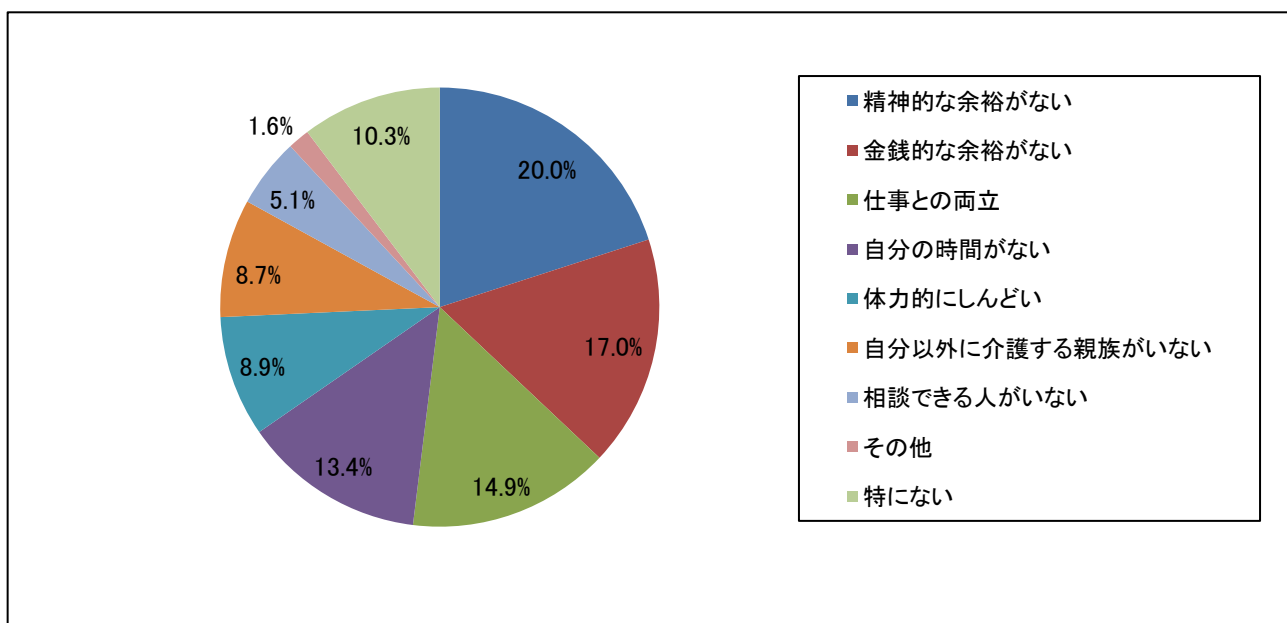
質問6. 親の介護を始めたことで、困ったことや気持ちの面で変化はありましたか？(複数回答可)

「経済的な不安を感じる」と答えた方が一番多い結果となりました。また、「何からどう始めたらいいのかわからず困った」という回答が続きました。



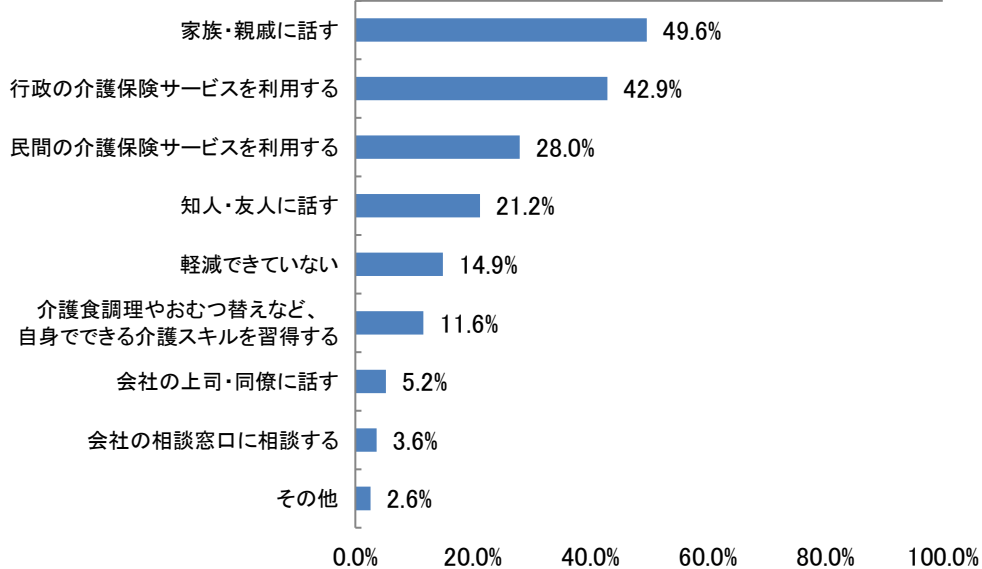
質問7. 介護をするにあたり、何が一番大きな負担ですか？

親の介護にあたり、「精神的な余裕がない」と答えた方が一番多い結果となりました。次いで、「金銭的な余裕がない」と答えた方が続き、気持ちの面でもお金の面でも介護が大きな負担となることがわかりました。



質問8. 質問7で、「特にない」と答えた方以外の方にお聞きます。介護の不安や困りごとをどのように軽減していますか？

半数の方が、「家族・親戚に話をしていることがわかりました。また、行政や民間の介護保険サービスを利用している方もいることがわかりました。
一方で、約15%の方が、「軽減できていない」と答えました。

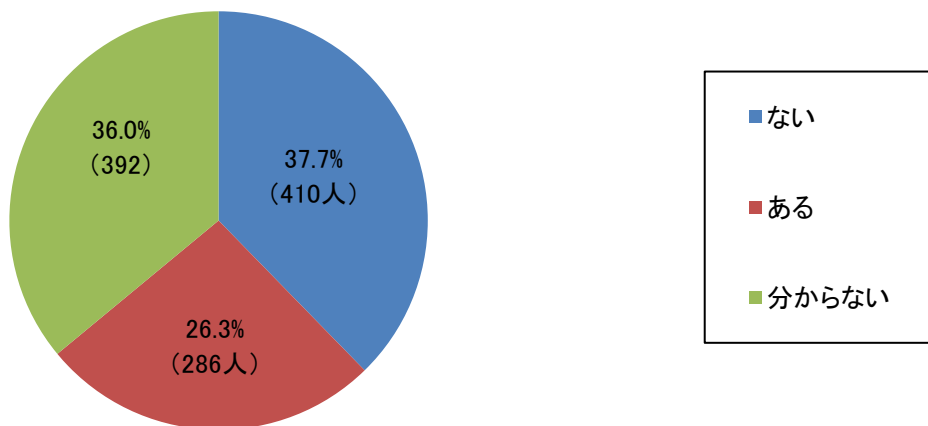


(回答対象: 質問7で何かしらの負担があると答えた方 回答者数: 979 人)

<ここからは、「今までに一度も介護の経験をしたことのない」と答えた方にお聞きました。>

質問9. 近い将来、親の介護をする可能性はありますか？

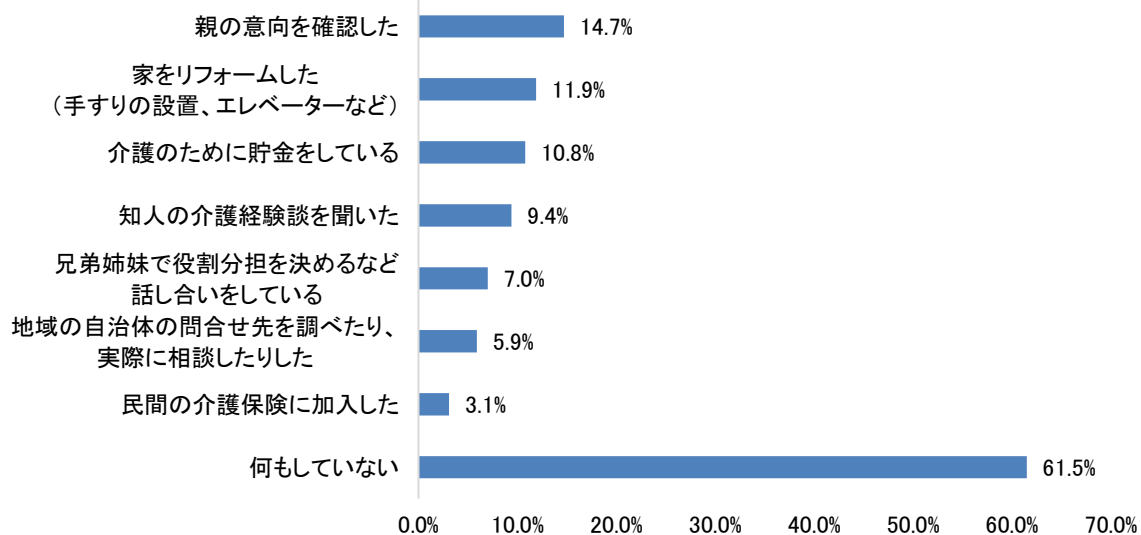
約3割近くの方が将来親の介護をする可能性があると考えていることがわかりました。



(回答対象: 親の介護経験がないと答えた方 回答者数: 1,088人)

質問10. 質問9で「近い将来、親の介護の可能性はある」と答えた方にお伺いします。介護に備えて、すでにやっていることはありますか？(複数選択可)

介護を受ける当事者となる「親の意向を確認した」という回答が一番多い結果となりました。また、「何もしていない」と答えた方が、61.5%と半数以上を占める結果となり、事前に介護に対して準備をしていない人が多数いることがわかりました。



(回答対象: 質問9で「親を介護する可能性がある」と答えた方 回答者数: 286人)

SOMPOリスクマネジメント株式会社

医療・介護コンサルティング部 上席コンサルタント 泉 泰子

本調査から把握できるのは、介護の可能性を抱えている方が多いのに比べて、親の介護の始まりについて認識されている方が少ないということです。

質問1の「介護が必要だと感じたきっかけ」は、半数以上が病気・怪我がきっかけとしています。その時までにはまったく介護を考えておらず、医療機関でいきなり介護となったと告げられている状況であろうと思われます。これは、その他の回答の「衰えを感じた時」という介護の始まりとは、その介護の緊急度が異なるのではないのでしょうか。

「介護を始めたことで困ったこと」の回答を見ても、「経済的な不安」は先々にどのような介護のための費用が掛かるのか見えない不安と考えられますし、「何からどう始めていいかわからず困った」という回答は、すぐに介護を開始しなくてはならず、手続きや職場への対応等々情報を収集しながら、体制を整える余裕がなかったという状況で、いきなり介護が始まり、壁にぶつかっている様子が読み取ることができます。

それでも「近い将来、親の介護をする可能性がある」と回答された方の60%以上の方が、何もしていません。

昔と現代の介護の大きな違いは、「いきなり介護が始まる」ということです。親の衰えを感じてから、介護のサービスや親との話し合いを考えればいいという状況ですと、いざ介護となった場合、「何から始めたらいいのか」・「どういう体制を整えていくのか」ということを考える余裕はあまりありません。「事前にやっておけばよかった」という質問の「公共サービスの情報収集」や「介護を受ける本人との話し合い」が必要であったという回答はそれを裏付けるものです。

いきなりの介護は、どうしたらいいかわからない状態で始めるため「その時にできること」が中心となりますが、「親との話し合い」がなされていない状態で開始をすると、「子供としてこれでよかったのか」という後悔も生みやすいものです。

本調査における質問4の「やっておけばよかった」の項目は、これから介護をする可能性のある方の仕事と両立するための重要なキーワードとなっていると考えられます。